

平成22年度事業報告

平成22年4月1日にこれまでの任意団体日本化学連合の会員、事業、財産を継承して、一般社団法人日本化学連合に移行した。

平成22年度は財政と組織基盤の強化および世界化学年事業については諸団体と連携して積極的に推進することを重点に活動を行った。

1. 法人化と財政・組織基盤の強化

新法人の定款では学術団体以外の団体が正会員になること、個人または団体が賛助会員になることが可能になったので会員の加入勧誘、および、世界化学年対応のための特別会費を正会員、賛助会員や個人に勧誘を行った。

正会員については増加がなく現時点で会員数17である。賛助会員については団体3、個人11の加入があり、世界化学年特別会費については1団体および個人19名から会費をいただき、賛助会費、特別会費として合計163万円の収入があった。

また、世界化学年事業については独自企画を立案し、諸団体に趣旨の説明と協力をお願いし、理化学研究所、化学オリンピック日本委員会、科学技術振興機構、化学工業日報社より平成22年度から23年度にかけて約450万円の(23年度使用予定を含む)支援をいただくことができた。

世界化学年事業の推進のために日本化学連合内に世界化学年委員会を設置し、事業ごとに委員会あるいはワーキンググループを設置した。

2. 世界化学年事業の推進

日本学術会議(化学委員会)から事業を具体化する準備を付託された。日本学術会議をはじめとする諸団体と連携して、世界化学年日本委員会設立準備に参画し、平成22年8月6日の世界化学年日本委員会設立に大きく貢献した。

日本化学連合の役割は日本委員会、企画委員会や実行委員会の事務局を担当すると同時に、日本委員会事務局として、各団体の関連事業の取りまとめ、化学関係団体が開催する事業の把握調整(事務局連絡会のまとめ役)、世界化学年ロゴ使用申請代行、情報のネットワーク化(世界化学年日本委員会ホームページ(和文・英文)の管理)などである。

世界化学年を盛り上げるために、以下の新しい事業を日本化学連合として3件企画し、平成22年8月6日開催の第一回世界化学年日本委員会で承認された(平成22年10月5日開催の理事会で事後承認された)。

- ① 世界化学年カウントダウン記念シンポジウム
- ② 化学コミュニケーション賞創設
- ③ キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール

3. 会計

平成 22 年度は会費収入以外に賛助会費、講演会収入をもって活動する予算を立て、従来からの事業に加えて、世界化学年事業として世界化学年カウントダウン記念シンポジウムを実施した平成 23 年度実施準備にも注力した。平成 23 年度の世界化学年記念事業準備金として 210 万円を計上し、平成 22 年度の繰越金は 828,289 円となった。

4. 学協会の活動の連携業務開拓の継続

他学協会と連携したシンポジウムを平成 19 年度より継続している。平成 22 年度は以下の 4 件が企画されたが、一部は地震のため開催中止となった。

①高分子学会との公開シンポジウム「持続可能な社会に向けての高分子化学の役割」

平成 22 年 5 月 27 日 横浜パシフィコ

②有機合成化学協会との合同講演会「持続可能な社会に向けての有機合成化学の役割」

平成 22 年 11 月 27 日 東京工業大学

③化学工学会主催、日本化学連合ほか共催「化学産業技術フォーラム」

平成 23 年 3 月 22～24 日 東京農工大学

(地震のため、中止。ただし、開催扱い)

④独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構主催、日本化学連合ほか

2011GSC ワークショップ「環境とともに生きる化学」

平成 23 年 3 月 17～18 日 学術総合センター (地震のため、中止)

5. 情報発信

化学連合ニュースは月 2 回発行を継続している。正会員、賛助会員、役員、委員に送付しており、平成 23 年 3 月末で 57 号を発行した。

6. 庶務の概要

6-1. 理事会 3 回、社員総会 1 回

6-2. 理事 24 名、監事 2 名

6-3. 委員会など

運営委員会 2 回 (財務強化、組織強化、広報、企画活動)

将来構想委員会 1 回

企画委員会 2 回 (シンポジウム実行、化学発信の 2 委員会を設置)

幹事会 4 回

顧問会 2 回

7. 世界化学年事業

7-1. 日本化学連合主催の世界化学年行事

① 世界化学年カウントダウン記念シンポジウム

2011年に「世界化学年」が始まることを社会にアピールすることを狙いとした。世界化学年日本委員会との共催、理化学研究所の協賛を、また多くの団体から後援名義を使用させていただき、2010年12月1日(水)午後、東京大学・小柴ホール(東京都文京区本郷7-3-1)において開催した。タイムリーな企画であったこと、鈴木、根岸、毛利先生、府省の代表、日化協、また、先進的研究を進めている大学、企業の研究者の方々から激励の挨拶、貴重な講演を頂いたこと、学生やマスコミ関係者の参加が多く、会場の小柴ホールには230名余りの参加者があり熱気にあふれ盛会となった。また世界化学年大使を任命したこと、学生の参加が多かったことから若い人たちの化学への興味の喚起につながるものであった。

② 化学コミュニケーション賞

一般個人および団体を対象とした化学啓発への貢献の顕彰する「化学コミュニケーション賞」創設を準備してきた。対象業績はわが国において化学・化学技術に関する社会への啓発活動、情報発信を通じ、「化学」に対する社会の理解を深めることに継続的に貢献してきた業績とする。募集期間は平成23年4月11日より6月30日とし、10月28日に表彰式を開催する。共催：化学工業日報社 協賛：科学技術振興機構 後援：世界化学年日本委員会ほか。

③ キュリー夫人科学伝記感想文コンクール

キュリー夫人のノーベル化学賞受賞から100年目を記念して小中学生(小学校4～6年と中学生の部に分ける)を対象とした読書感想文コンクールを実施する。募集期間は平成22年12月1日～平成23年4月18日とし、8月3日に駐日ポーランド大使館で表彰式を開催する。共催：世界化学年日本委員会、化学工業日報社 協賛：科学技術振興機構。

7-2. 日本委員会の活動について

平成23年3月3日に第2回企画委員会・第2回実行委員会の合同委員会を開催し、日本委員会主催の行事を検討した。また、平成23年3月26日には第二回世界化学年日本委員会を開催し、これまでの活動経過を報告すると同時にご意見をいただく機会を設けたが、震災のため中止とし、関係書類を委員およびオブザーバーに郵送し、意見をいただくことにした。

7-3. 世界化学年事業(日本)について

日本における事業については、世界化学年日本委員会に申請されたものについて順次掲載されている。平成23年3月末で49件が紹介されている。

7-4. 世界化学年事業(世界)について

平成22年12月から平成23年1月にかけて、世界化学年のオープニングに関するシンポジウム(日本)、セレモニー(ホノルル及びパリ)などが開催された。世界中では783件(91カ国合計)の行事が登録されており、日本からの登録件数は40件である(平成23年3月31日現在)。

以上